

「タウヒード(アッラーの唯一無二性)の意味」

@御徒町 masjid における 2018.2.16.金曜フトバ要約 by 杉本恭一郎

タウヒードとは、アラビア語のワーヒド (2章 163節) とアハド (112章 1節) から派生した言葉です。ワーヒドは、数字の1という意味のアラビア語です。これを否定すると1ではないとなります。他にあるという意味です。しかしアハドを否定すると1もないとなります。他にもないという意味です。だからアハドの肯定形では「唯一無二」というニュアンスが残ります。たくさんの中の1つという意味ではなく、唯一単独で存在し、追加や分割もないという意味です。クルアーン 112章 4節いわく、「かれ(アッラー)に比べ得る何のものもない」とあります。

唯一無二(アハド)という意味は、イスラーム信仰においてとても重要な意味を持ちます。18章 110節いわく「かれの主への崇拝においては、何1つ(アハダー)配してはならない」とあります。信仰行為(イバーダ)におけるタウヒードとは、唯一無二のアッラーだけがすべてを創造・支配し(ルブービーヤ)、アッラーだけが崇拝される神性を有し(ウルヒーヤ)、アッラーだけにすべての美名と特性が属すること(アル・アスマー・ワル・スィファー)を意味します。つまり信仰行為におけるタウヒードには3つの要素があるのです。1) ルブービーヤ、2) ウルヒーヤ、3) アル・アスマー・ワル・スィファーです。

ルブービーヤはアラビア語のラッブから派生した言葉であり、ラッブとは一般的に「神の行為を行なう主体」をさします。たとえば、神は創造し支配し統御します。創造主とも言えます。ただしラッブを認めるだけでは、信仰におけるタウヒードにはなりません。なぜなら、無明時代のマッカの人びとは、創造主としてのアッラーを信じていましたが、他にも多くの神々を崇拝していたからです。そこには唯一無二(アハド)の創造主という概念がありませんでした。だから創造主の概念のイスラーム化(唯一無二化)こそが、タウヒード・アッ・ルブビーヤなのです。

ウルヒーヤはアラビア語のイラーハから派生した言葉であり、これは「われわれの信仰行為が向かう対象」を意味します。イスラームにおいて信仰されるにふさわしい神性対象は、唯一無二のアッラーであり、アッラーに比べ得るものは何もありません。アッラーの他に崇拝するものは偽りです。様々なものがイラーハ(信仰対象)となり得ます。例えば、崇拝のための偶像はイラーハです。アッラーの命令や禁止事項を守りたくないという人間の欲望もイラーハです(45章 23節)。神を信じない無神論や不可知論も、視覚的に観測や実証できないアッラーを信じない科学的思考というイラーハに従うのです。タウヒード・アル・ウルヒーヤとは、唯一無二の創造主アッラーだけを信仰対象とすることを意味します。

そしてタウヒード・アル・アスマー・ワル・スィファーとは、アッラーの美称と特性における唯一無二性のことです。例えば、この世界にはいろんなことを知っている人びとがいます。でもアッラーが究極的かつ絶対的に知っている方だということです。つまりアッラーは唯一無二の全知の方(アル・アリーム)となります。また例えば、慈悲深い人はたくさんいます。しかし最も究極的に慈悲深い方はアッラーにおいて他にいません。だからアッラーは唯一無二の慈悲深い方(アッラフマーン)となるのです。

アッラーはこの世で信者たちに、シャイターン(悪魔)とダッジャール(偽救世主)という大きな試練を与えました。「終末の日」の大きな予兆の1つは、ダッジャールです。かれはイスラーム世界がこれまで体験したことのない衝撃をもたらすと言われていました。ダッジャールとはアラビア語のダジャラに由来し「混ぜる」という意味で、偽物と本物、善と悪などを区別できなくさせ、混乱をもたらすのです。ダッジャールはムスリムを混乱させて、ダッジャールを崇拝させると言われています。だからタウヒードが失われないように、ムスリムは常にアッラーへの意識を高く持つ必要があるでしょう。